

株式会社 宗像建設のDX戦略2025

＜経営ビジョン＞

山口県、山口市のデジタル化に対応するため、社内のDX化を実現し、働きやすい環境を整える。

＜ビジネスモデルの方向性＞

経営ビジョンを実現するために、電子契約や情報共有システムなどのデジタル技術を活用し、作業の効率化を実現することにより働きやすい環境にする。工事情報のデータ化を進めることで若手育成、人材確保に努め、ペーパーレス化を目指す。

『DX戦略』

戦略1 社内DXの推進

戦略2 工事情報のデータ化

「DX戦略の具体的な取組」

- ・クラウドサービス、電子契約、情報共有システム、電子納品を活用することで、作業の効率化を実現し、働きやすい環境を目指す。
- ・知識や技術のデータ化により若手育成、人材確保、環境への配慮を目指す。
- ・測量機器の導入により、測量作業の省力化、効率化、3D図面データの活用を目指す。

「DX推進体制」

- ・クラウドサービス、情報共有システムを活用し、リモートアクセスを可能にすることにより、施工写真や図面等の管理を本社事務所だけでなく、現場事務所においても行うことができるため、作業の効率化、生産性の向上につながる。
- ・電子小黒板を利用することで、黒板を持つ補助員の手間が不要になり、写真データの編集も写真ソフトにより自動編集され、省力化、効率化が図れる。
- ・情報共有システム、電子契約の活用により、書類持参の必要がなくなり移動時間の削減になる。
- ・工事データをクラウド上で管理することにより、全社で情報共有ができるので、過去に施工した工事の施工管理方法等のノウハウを蓄積できるため、若手育成や未経験者の就労を後押しでき、人材確保につながる。
- ・工事情報のデータ化により紙媒体での保管に比べて保管スペースが少なくなり環境への配慮につながる。
- ・測量機器の導入により、測量作業に必要な人数が減り、省力化、効率化が図れる。測量補助ソフトを使用することで3D図面データの活用も可能になる。

「DX戦略の推進に必要な環境整備」

- ・インターネット環境の整備（ポケット型WiFiの配布）
- ・クラウドサービス、電子契約、情報共有システム、電子納品の導入

- ・1人1台のスマートフォンの提供
- ・測量機器（杭ナビ）の導入

「戦略の達成状況に係る指標の決定」

- ・クラウドサービス利用数7/7ライセンス（100%）
- ・時間外労働時間の把握
- ・新規雇用者の定着数の把握

「トップメッセージ」

建設業においては、人手不足や生産性低下に対し、現場作業の効率化が課題となっている。このような課題を株式会社宗像建設ではDXにより解決し、働きやすい環境を整えることで若手の育成や人材確保に努めていく。また、紙ベースの作業からデータ化に移行し、企業としてより環境に配慮した活動を行っていく。